

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN

Tsujimura

衆議會議題



和議書



衆議會算題

門二
號
卷

衆議會算題



西久保八幡宮祭禮中赫々應樹苑

衆議會算題

大原の郷より西京市御へ光と賣ひ女高り
或人亦生三百石とあんまりて金之落後と僕丁
無く是命と謂く桃柳橋りくら桃拾立後
柳四段橋拾後と穿つる魚一又云桃柳橋りくら
桃拾立後橋八段橋立後と定む茲より女高四段
の光と持走り仍て僕主割合は男の式段と餘
きりと云者元幾何から承

答曰 桃捨式陵八重 楊七陵武重

柳三陵武重

椿四陵八重

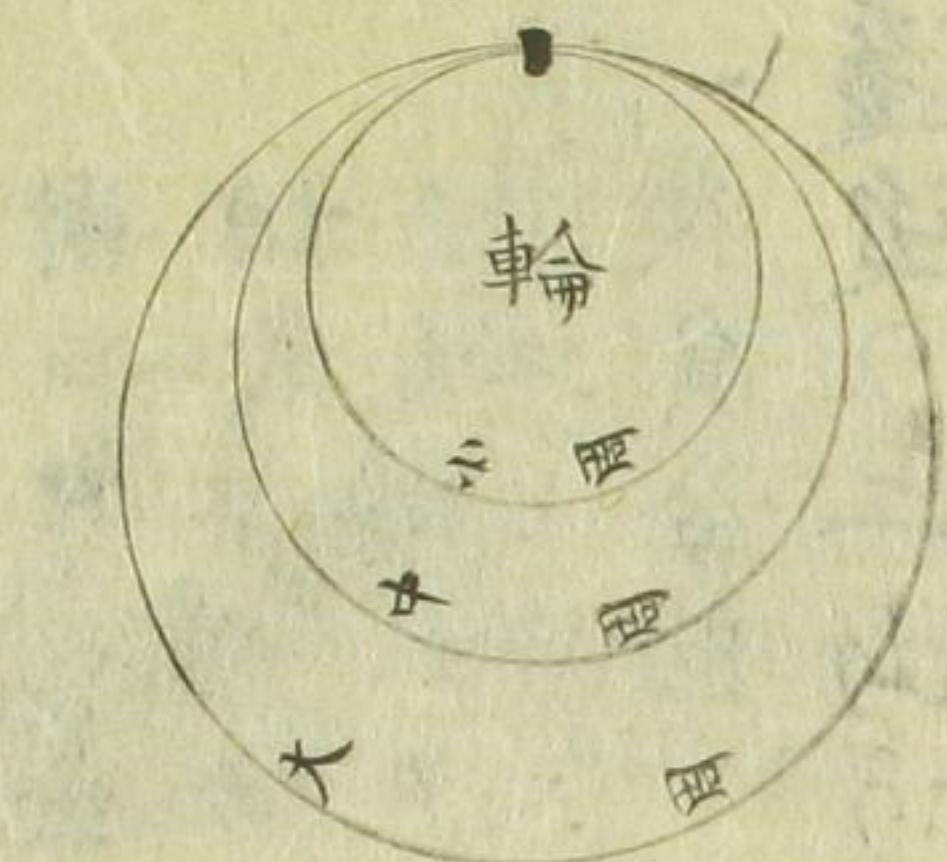
術曰桃陵と以て柳陵と隣き柳率と隣き柳率と
以て椿陵と隣き椿率と隣き柳率と隣き桃陵と
て是と桃陵と隣き楊率と隣き柳率と隣き桃陵と
加へ法と隣き與陵と並肉館陵と隣り余と法
大深き桃代陵と海因法と隣り東率と隣り東代陵
と海因と食ひ

今圓の如くニテ輪より生周り大輪也天三寸中
輪五尺六寸小輪四尺五寸也力と同フ一而廻

安永始年等記所々達之右義

廻り切りや

大輪四捨零度



答曰中輪四捨五度

小輪五捨六度

術曰置各輪周依齊約術得齊數二十立百為通實
以某輪周除之得某巡度合問

安永若干金而口云奏任ナシ一名金七圓免
遣拂ハタハタて四日ナシて有ナシ又云判任ナシ六一名
全又圓免ナシて六日ナシて遣至ハタハタとり其金高

四千圓^ニ滿^ニ總金高及奏判^ミ人貞幾^許^カ

哉

總金三千七百八拾圓

答曰奏任百三拾五人

判任百武拾六人

術曰只云金數日數相乘^{各奏率}又云金數日數相乘^{名判率}依齊約術得齊數^{四百二十個}以除云金高^{商一位止下分位者棄之}乘齊數得總金高以某率除之得某人貞合問

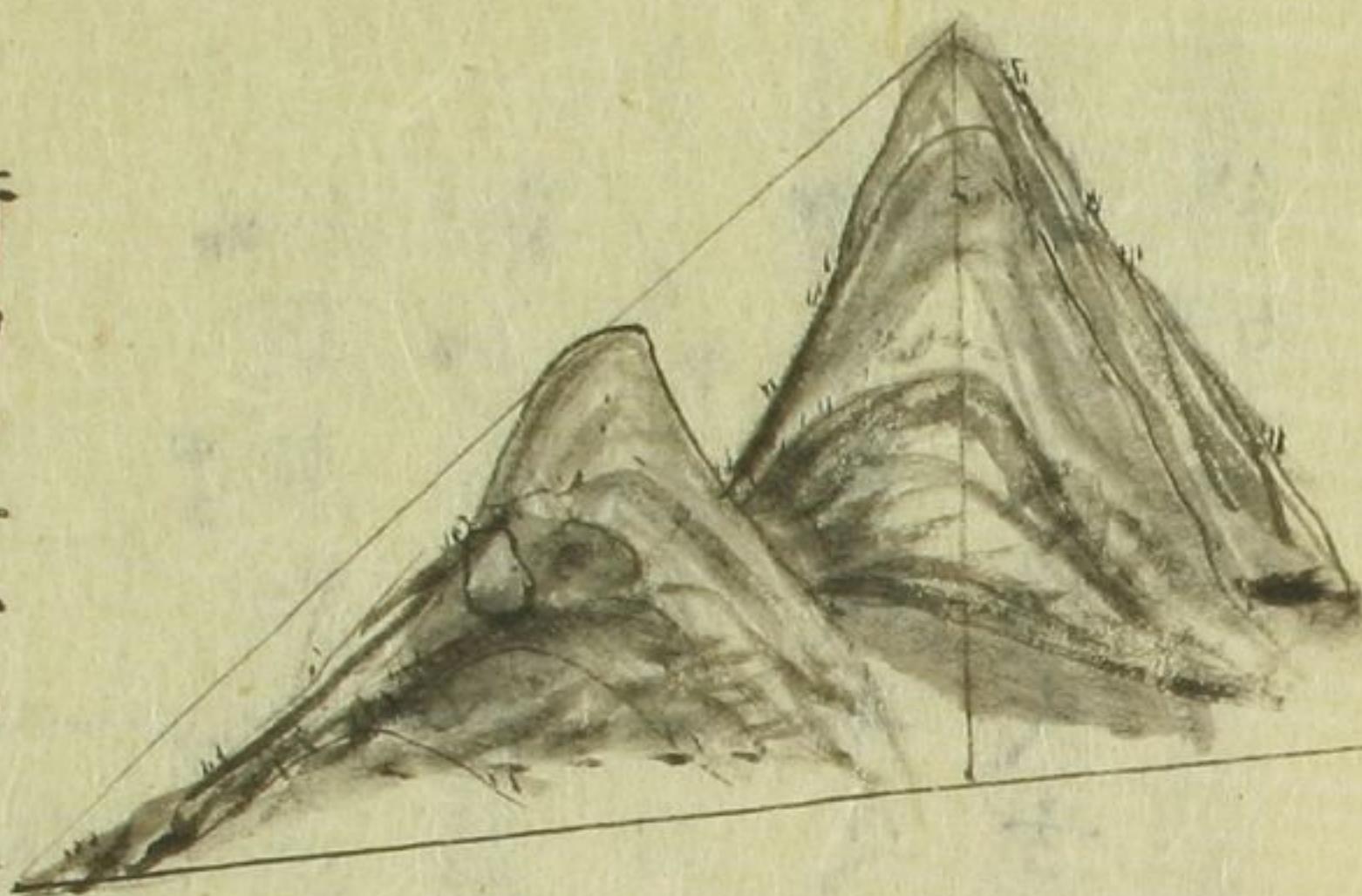
遠近の二山^{より}を詣難七里^{あり}て今近山と詣

り事若干里の地平^{より}既兩山
と見うとく^ハ生高相等一而一
て近山也^すと拾六町也然り時
を遠山の高及今近山と詣り所
里數^{但十里}を幾何^かあや

答曰遠山高三拾町

答曰近山と詣り率八里

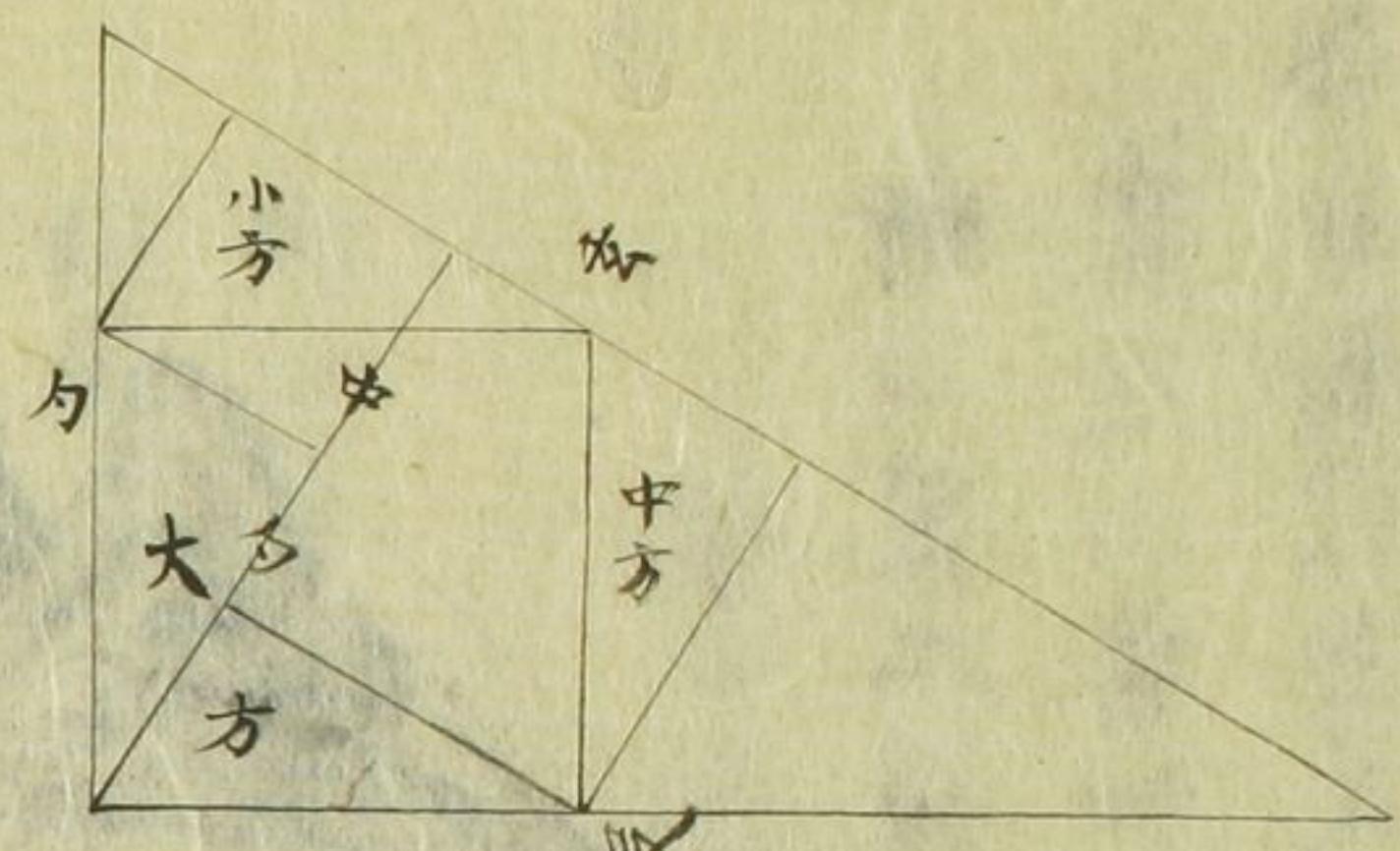
術曰置二山距里乘近山高依商分術得^{右十四}左八置近山高加右數為遠山高以左數為距里合問今有如四句及內容中句及三方只云勾足差若干



又云中小方面差若干問得句足

玄及大中小方面各術如何

答曰如左術



術曰置只玄數自之名甲加又玄數畧平方開之加又云數乘又云數二之以減甲余開平方名乙以除甲得玄又減乙余半之得中句加又云數半之得小方面置玄乘又玄數以只玄數除之得大方面以除玄乘中句減只玄數半之得勾合問得勾合問

若干數より多ひ兩數自分り少數と以て多數と減き恰と原比若干數の如一と云より兩數と得る術と問

答曰如左術

術曰設隨意數為原數加一個以除原數為少數以減原數余為多數合問

原數	試數	不盡者累斯
一	二	
五分	六分	少等

三	四	五	六
八分	十分	七分五厘	二箇二分五厘
三個二分	三個一分	三個五厘	三個一厘
餘畧之			

餘畧之

遠州相良

佐埜

允

青山北町三丁目

石井忠頼

廣島縣

田中善優

麻布霞町

間庭又次郎

東京府

武島道興

武州多摩郡倉澤山

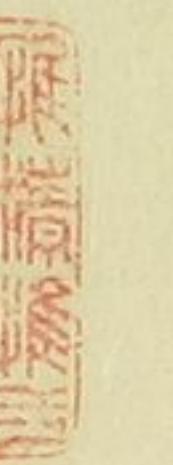
坂和彦義

關流七傳

中村義方

明治八年八月

赫々塗



西久保八幡宮祭禮中赫々塗掛院

農議會算題

蓬莱又鷺人高鶴龜山里玉顯教合文拾玉教
相乘す近いに百文拾古なり 但高も古何詮
か人武

答曰 鶴拾式

龜三拾八

麻布戎木町一坂上

右 東京

柴崎彌太郎撰

甲乙丙三名の學生あり教師算額式拾出
名より示して曰く試験するよ術意云くある一額
又三個の錢と争ふ也若一錢よりハ一額は三
個である。以迄此題一題約を試る後得教と
算ふ。内に甲者八拾四個乙者六拾八個丙者四拾
四個也名正湖の號教養許り。

答曰 甲者拾八額 乙者拾六額
丙者拾三額

東京永田町寄留

中萬方英撰

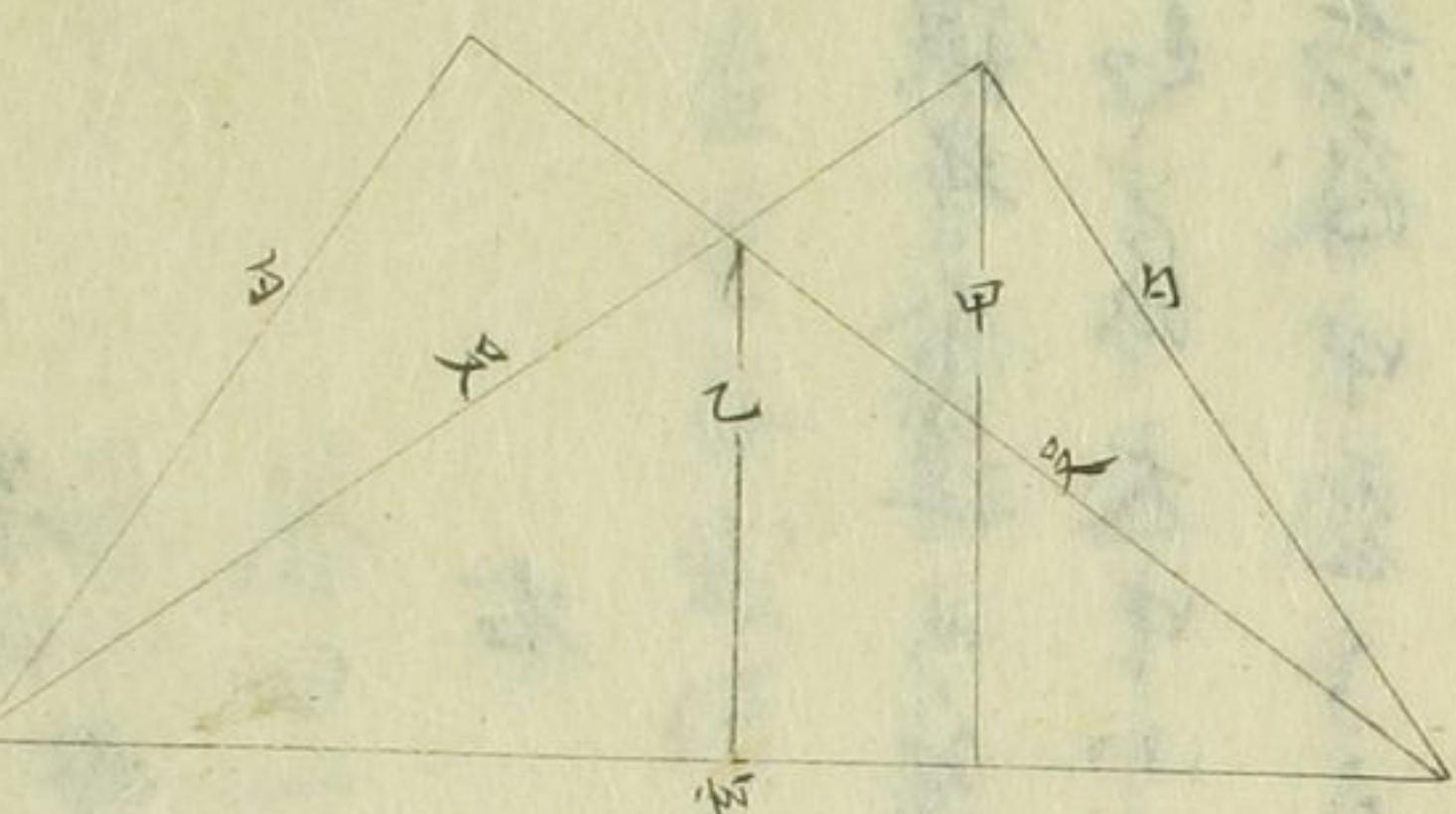
右 三浦縣

今有如圖双勺隻只云甲八寸乙
五寸問云幾何

答曰 云二十寸

溜池吳南坂町

右東京 奥江榮一撰



文殊にて卒業を終ひ一子是と資けて父と共に
有りとれハ母の二倍となる又母と共に有ると云ひ

又此二倍半於一日三人共よ得る實金玉拾
四枚也右或許定

答曰父拾八枚
母拾三枚又厘
子或拾武枚又厘

東京芝森元町寄留

右 三浦縣 石井獻助撰

鎮守祭禮又神酒の余り一献と汲じ其人負と
却く大中小の盃と以て一座と廻る事小至ち
亦後中至き三枚大至き武枚半て武半武半

六合と候之より多至量と試るよ大至四分之
二と中至二中至八分之二と小至二又三至二
共よ有ると紀ハ二合より六抄ばかり依て人負及
至量各家何と問

大盃三合六勺

答曰一座武拾人 中盃三合武勺

小盃七勺六勺

櫻田太左衛門町

北村久明撰

右 東京

甲しニ寫字生あり甲者ニ拾ニ日間ト書三百
大拾枚と字以甲七枚と書ヒルヨシ考九枚と
字す乙六百枚と寫レ總人ニモ考何日以費シ
答曰乙四拾四日

麻布新細町毛丁目

右 東京

菊池武義 撰

爰ニ配分數引リテ割合甲と乙とニミの如く
乙丙と四と五の如く丙と下とセと六の如く
丁と戊とハミ九の如一と云花ヒハ甲と戊とハ

割合如何ト同

答曰如 甲 大拾六

成 者 四拾八

右 山口縣

右山口縣

溜池美南坂町寓居

齋藤庫太撰

大中小三個ニ教キリテ和ヒ大拾八個而一テ大
教ニ内拾八個と減レ九個と算シハ中ニ教ヌ者又
又小ニ内二個と減レ二個と算シても中ニ有ル
古考何

答曰 大式拾個 中拾八個

小拾四個

麻布綱代町

羽鳥義徳撰

右 東京

若干数行り内甲者拾式分之拾乞乙者八分之五
丙者拾八分之七又分丙甲より丙も三拾八個
云々右幾何と問

答曰 甲者古拾六個 乙者四拾二個

丙者式拾八個

飯倉町貳丁目

右 東京 三宅直中撰

爰又三種の綱行り價異みて金五百大拾八個
と以テ右等三拾六又花買得より比較より
綱綱六反と糾後六反の如一綱綱ニ反と取ニ
四反六等一右等又之價或許

綱綱金六圓

答曰 紗綱金六圓

羽二重金四圓小拾八

飯倉 程穴町

右 東京

中根義裕撰

皇國之尺各三種あり曲尺鯫尺呉服尺と云用二所
程也曲尺と云其寸尺各不同角にて鯫と曲一尺或寸
五分又等一尺後去曲一天或寸又等し今一種之
謂也之長サを忘却すれども此種の尺より
計り見らるゝにハ各天候といへば總代金を四八
拾浅引り各走天に價_{乃最大}幾何と問

答曰

東京西久保八幡町寓居

右 鳥取縣 本城清彦撰

航海師の海の深サを測量するよ初め全線の七
分之三を投げ再び至除線九分之二と投げよ
海底に達し残線四丈六尺三寸四分と云従事ハ
全深サ或許かる哉

答曰深さ七尺八寸

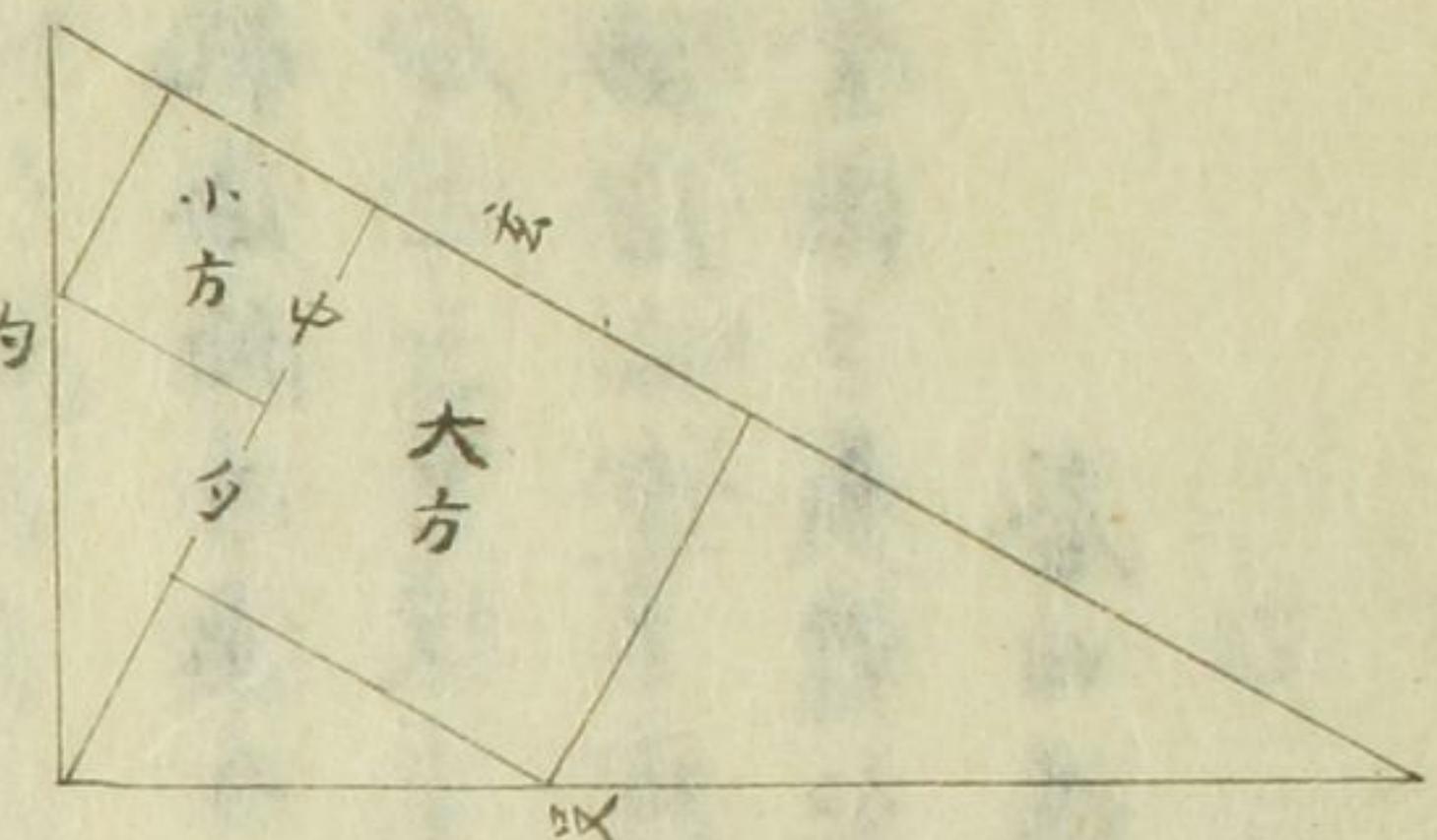
四分之三

右 東京

永田町貳丁目 間庭三四郎撰

今右如圖勺及内隔中勺容大小
方其大方面若干小方面若干問
得勺及玄術如何

答曰



右東京 飯倉狸穴町
秋里正典撰

童子算珠盤と號すあり實法の数ハ云々されど也
其實数三百式拾六個を加へ法又除けハ六個を減

又實數の内百拾七個を減し余りと法又除けハ
三個を得ると云向實法の數幾何

答曰 實數三百六拾四個
法數八拾三個

飯倉町三丁目

東條三郎撰

右 東京

今有大中小俵合千。大拾四俵附石數只百三拾。
式石也大き俵に入と九分之八よ一て中俵入と
大き俵に入ば六分之三よ一て小き俵へとも各

石数等くすると紀ハ其俵數幾何

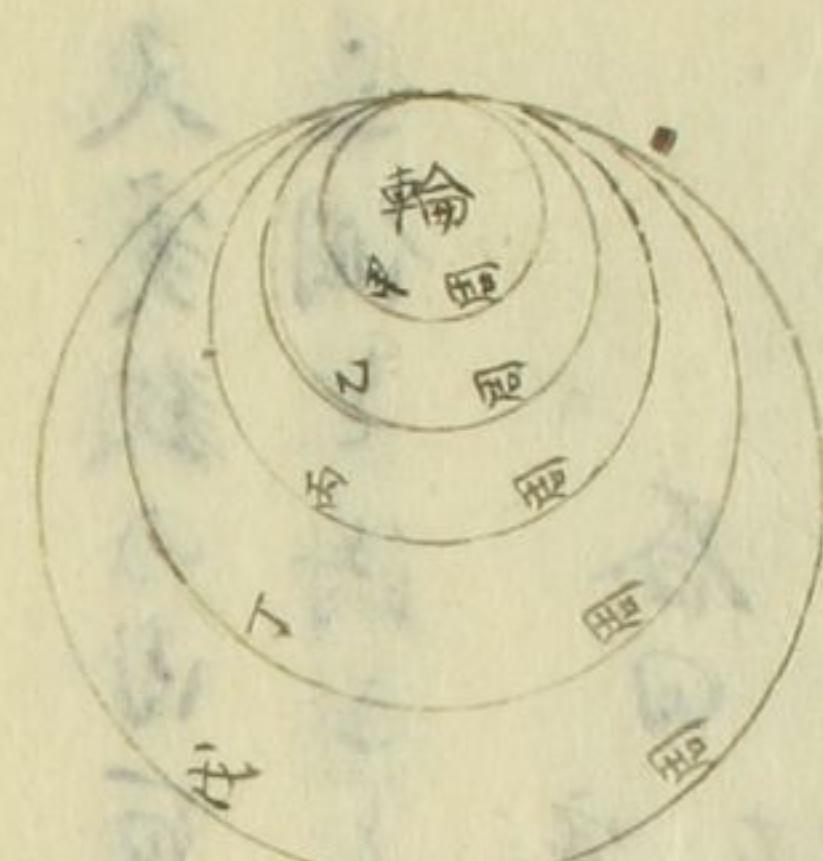
答曰 大三百式拾俵 中三百六拾俵

小三百八拾四俵

麻布坂下町寓居

右 山口縣

藤田猛虎撰



爰より但輪而已各用合九千
〇三拾七寸是甲輪周也千式百
九拾六寸戊輪周也式千四百。
七寸也乙丙丁輪周遼次増法と
きす也

同上云名輪因歲何問

答曰

神谷町住

右 東京 神谷町住 大木定真撰

今石藏ヲ築クアリ横ヨリ縦ハ一倍長シ其地形
ノ廣サ方一尺二寸ノ石ヲ敷其數若干切又方九
寸ノ石ヲ敷トスレハ前數ニ増事三百五拾切也
ト云縦横間數幾許ト問用間法

答曰縦六間 橫三間

麻布霞町

右 東京 山田久徴 撰

爰ニ正轉ノ比例アリ正比例ハ二率三率相乘一率ヲ以テ除キ四率ヲ得轉比例ハ一率二率相乘三率ヲ以テ除キ四率ヲ得トス今二率三率相乘數百八十個一率二率相乘數六十個一率三率相乘數四十八個也問正轉ノ四率數幾何

答曰四率 正四十五個

轉五個

右 廣島縣 田中善優撰

植ノ茅の倉刈り花咲く革甲の日臺四ワ。乙日
ち十兩の日ハ式拾丁の日ミニ拾玉。毎日此若よ
准して多くとれハ次々に花咲許ひんが

答曰 戊日六拾六 己日八拾四

義方長男

右 東京 中村金吉撰

今有如圖勺反積七千三百五十
寸其勺十六者如長玄十五間勺
又玄及中勺長玄短玄各幾何

勺百。五寸

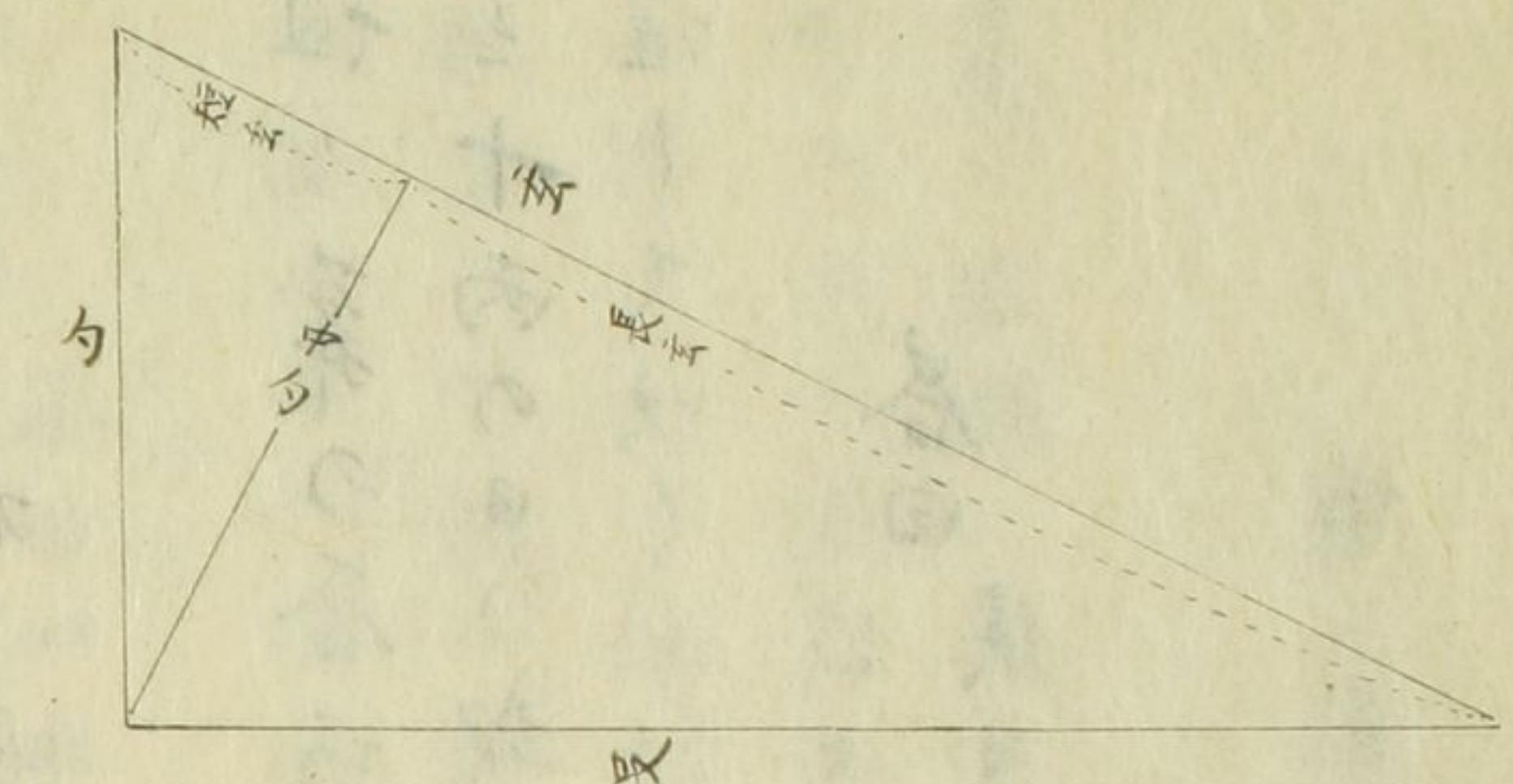
答 反百四十。寸

玄百七十九寸

中勺八十四寸

短玄六十三寸

西久保城山町



曰

長玄百十二寸

右 東京 江戸山町 間庭又次郎撰

甲乙丙丁の識者至り東京江戸山町奉仕至り甲者
勅任舟にて三百圓乙者奏任舟にて百五拾圓丙者
判任舟にて五拾圓丁者等外舟にて拾圓各賜給
也甲子之人舊里比义母贈金を傍人事と約
て毎月甲者三拾圓丁者五拾圓と贈附す今
乙丙も是を準據して贈金と存んと名成許

答曰 乙全拾四圓

五拾八分
之四拾三

丙全四圓

青山北町三丁目

右 静岡縣

石井忠煥撰

今有名龍中右數其龍中數和者如右數幾倍又右中數和者如龙數幾倍問兩數異而得各數術如何

答曰

赤坂臺町

甲山西右 静岡縣

中山直毅撰

西京嵐山春の頃も松楓葉共よ花葉と生し櫻の

花滿園よ至シハゆの吹毎よ想數
木分之一散り次よりハ其の散り數比三分之一死
遂て吹きより古葉もかり生かる秋よ生シハ
モ葉も紅葉して楓とちよ葉葉數の七分之二
前吹如く吹き散り松のをふらうとかる古本此
花葉之比よ均くして想本數と三百本とす

名数が死かる哉

楓百本

答曰楓百本拾五本

松七拾五本

周防國德山

右山口縣

河村幸佐撰

幹事

石井忠源

間庭又次郎

閑流七傳

中村義方



明治九丙子八月

